

ICSID '89 N A G O Y A

Great Design / World Exhibition

世界デザイン会議

世界のグレートデザイン展

報告書

ごあいさつ

このたび世界デザイン会議の主要事業として企画いたしました「世界のグレートデザイン展」が盛大に開催できましたことは、主催者として誠に喜びに絶えない次第です。

あらためて申し上げるまでもなく、この展覧会はその名のとおり現在世界の第一線で活躍するトップデザイナーによる作品を一堂に集め開催したものであり、わが国ではもちろん世界でも初めての試みとして内外から大変注目を集めました。

会期中はデザイン会議参加者を始めとして企業関係者、学生、一般市民といった各界各層の方々にご参観いただくなどたいへんな反響がありました。短い開催準備期間にもかかわらずこのように優れた展覧会が開催できましたことは関係者各位の絶大なる努力によるものであります。

今回展示された作品の多くは、21世紀を切り拓くすばらしいデザインでありここから発信されたデザインのメッセージはやがて大きな潮流となり世界へ伝播していくものと確信しております。

これもひとえに国内外から優れたデザイン作品をご出品下さいました出展者各位を始めとして本展の開催にご支援、ご助力を賜りました関係機関、団体のお陰と心から御礼申し上げます。

1989年12月

世界デザイン会議運営会
会長 竹田 弘太郎

世界デザイン会議のはじまりにあたって、米国デザイン界の重鎮であるアーサー・ブーロス氏は毎日新聞に寄せたメッセージの中で次のような事を述べています。

“国際化ということは、民族固有の文化を守るということと、ある意味では矛盾する。しかしながら、すでに優れた何人かのデザイナーが実績として示しているように、優れた個人は国や民族を超えて世界に影響を与えるであろうことは、ますます確かになっていくであろう・・・”と。

ICSID '89名古屋の運営ポリシーは、一流の人・モノに会う機会をつくる、世代をつないでいく、名古屋らしいホスピタリティの3つをかかげていました。

G. デザイン展はデザイン作品の持つ個人のメッセージの輝きを集結し、この名古屋から次世代に向けて発信させる試みでありました。

デザイン展としての企画のユニークさ、展示・構成のレベルの高さは、県美術館から世界に向けて語りかける内容を持ったものとして評価され、デザイン会議の総合的質を高め、その目的を十分に達することができました。

短い準備期間に、これだけ内容のあるものにまとめられた関係者の方々に敬意を表すると共に、開催にあたって直接、間接に協力をいただいた方々に深くお礼を申し上げます。

この展覧会を契機に、名古屋から世界に向けて第1級の展覧会が実施される土壌がつつかわれることを心から願うものであります。

1989年12月

世界デザイン会議運営会
実行委員長 諸星 和夫

グローバルなデザイン・マインドを求めて

池 亀 拓 夫（総合プロデューサー）

21世紀の到来を目前にして、いよいよ本格的なくグローバル・デザインの世界がはじまろうとしている。デザインにおけるグローバリズム（地球主義）とは、すなわち地球スケールでとらえたデザインの新しい概念を示すものである。

かつて、デザインにおけるインターナショナリズム（国際主義）とリージョナリズム（地域主義）といったテーマについては、数多くの議論や提案がなされてきたわけであるが、今日のような高度に発達した情報ネットワークの時代にあっては、インターナショナリズムとリージョナリズムを2つの異なった概念としてとらえることはもはや不可能といわざるをえない。なぜなら、今日のインターナショナルなアクションが明日のリージョナルなアクションとなり、今日のリージョナルなアクションが明日のインターナショナルなアクションとなる、そんなドラスティックな可能性に満ちているのが現代という時代だからである。

1989年10月、新生デザイン都市をめざす名古屋において開催された〈世界デザイン会議／世界のグレートデザイン展〉は、まさにこうした現代の状況を反映した実験的デザイン・アクションとしてみることができるであろう。私が本デザイン展の総合プロデュースを要請された際、まず第1に考えたことは、名古屋発の本格的かつオリジナルな地球スケールの展覧会を実

現してみたいということであった。幸いに、世界各国のトップ・デザイナー達の多大の協力のもとに、単なるリージョナルなアクションではない、世界にも十二分に通用するグローバルなデザイン・シーンが名古屋の地に具現化できたと確信している。

21世紀をめざして、デザイン都市を志向する名古屋、その実現のプロセスにおいて求められる最大のテーマはグローバルなデザイン・マインドである。21世紀においては、〈グローバル・デザイン〉が世界のデザインの主潮流となるであろう。そういう観点からすると、1980年代最後のデザイン・イベントとなった〈世界デザイン会議／世界のグレートデザイン展〉は、〈グローバル・デザイン・シティ・名古屋〉の創造へとつながる貴重なシミュレーションの場であったといえるのではないだろうか。

開催経過

■ 概況／開催にいたるまで

1989年デザインイヤー最大のイベント「世界デザイン会議」の開催に伴い、この会議を単に、参加デザイナー、講師、パネリストなどの専門家会議で終わらせるのではなく、これらのデザインムーブメントに対して一般市民等誰もが自由に参加できる重点事業として「世界のグレートデザイン展」と「市民フォーラム」を開催する方針が決定された。

この決定を受けて、世界デザイン会議運営会では平成元年1月より準備作業に入り、予算、組織、基本構想等の検討が進められた。その結果、平成元年6月2日には世界のグレートデザイン展開催委員会、同年9月20日には市民フォーラム開催委員会を設立し、10月の開催に向けてスタートすることとなった。

とりわけ、世界のグレートデザイン展開催委員会においては、世界デザイン会議に参加するデザイナーを始め講師、パネリスト等の作品やメッセージに触れることができる、名古屋発の本格的な国際デザイン展とする基本方針のもと、一般市民等が分かりやすいデザインに向けた取り組みが進められることとなった。

ネットワーク構築、出展交渉、展示計画、運搬管理、プロモーション展開、運営及び企画の全ての分野において事務局、世界デザイン会議運営会が一丸となって、きたる10月17日の世界のグレートデザイン展、10月18日の市民フォーラムの開会を迎えるに至った。

理事会、運営委員会の開催実績は右記の通りです。

1. 「世界デザイン会議

世界のグレートデザイン展」

(1) 理事会

ア 第1回（設立）

日時 平成元年6月2日（金）

場所 名鉄グランドホテル

議題 事業計画案及び収支予算案
について

イ 第2回

日時 平成元年9月11日（月）

場所 名鉄グランドホテル

議題 ①世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展
進捗状況報告について
②会場展示構成(案)等につ
いて

ウ 第3回

日時 平成2年1月17日（水）

場所 名鉄グランドホテル

議題 ①世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展
事業報告について
②世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展
収支決算について

(2) 運営委員会

ア 第1回

日時 平成元年6月2日（金）

場所 名鉄グランドホテル

- 議題 ①世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展
の概要(第1回理事会報
告)について
- ②世界のグレートデザイン展
基本計画(案)について
- ③その他

イ 第2回

- 日時 平成元年8月31日(木)
- 場所 東海テレビ放送
- 議題 ①進捗状況報告
- ②展示構想(案)について
- ③広報計画(案)について
- ④その他

ウ 第3回

- 日時 平成2年1月17日(水)
- 場所 名鉄グランドホテル
- 議題 ①世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展
事業報告及び収支決算に
ついて

2. 世界デザイン会議「市民フォーラム」

(1) 理事会

ア 第1回(設立)

日時 平成元年9月20日(水)

場所 世界デザイン会議

運営会事務局

議題 ①事業計画案及び収支予算
案について

イ 第2回 平成2年2月下旬予定

■ 全体スケジュール

	STAGE 1			STAGE 2		STAGE 3		STAGE 4			STAGE 5			
	基本構想			基本勧誘		基本計画		実施計画			開催 & 報告			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
1	プロデュース〔基本構想段階〕			プロデュース〔出展勧誘段階〕		プロデュース〔基本計画段階〕		プロデュース〔実施設計段階〕			プロデュース〔開催&報告段階〕			
2	基本構想			基本構想原案作成	最終案作成	公開用開催 計画書作成(和文・英文)								
3	展示計画			会場構成担当デザイナー決定 若林広幸(建築家)		基本コンセプト作成								
4	出展交渉			出展依頼先特定		第1次出展要請		最終出展物決定			搬入保管			
				出展勧誘用書類作成		発送		搬入手続			返却完了			
				リサーチ・レポート作成		USA 地区出展交渉		USA 地区リサーチ			終了後事務手続			
				ヨーロッパ地区出展交渉		ヨーロッパ地区リサーチ			USA 地区リサーチ					
5	会場構成			基本コンセプト作成		基本プラン作成		実施設計 展示物製作			搬出撤去			
6	イメージアイデンティティ計画			アートディレクター決定 八木保(エスプリUSA・アートディレクター)		展開デザイン制作								
				シンボルマーク依頼		シンボルマーク決定								
				コピーライター決定 岩永嘉弘(コピーライター)		キャッチコピー決定								
7	プロモーション計画			基本コンセプト作成		計 画 展 開								
8	PR媒体制作			ポスター制作 (D:八木保 在フランス)		B3ポスター制作 額面制作		会場配布パンフレット制作						
9	パブリシティ展開			基本コンセプト作成		プレス発表 (一般&業界)		プレス発表 (月刊誌)						
10	関連イベント			基本コンセプト作成							実施			
11	関連出版			基本コンセプト作成		編集 取材 & 資料収集		印刷 編集			印刷 発売			
12	関連番組			基本コンセプト作成		ヨーロッパ・USA取材		編集			放送			

世界のグレートデザイン展(1989年10月17日(火)〜10月22日(日)6日間)

開催要項

■ 趣 旨

世界で最も大きなデザインを考える国際会議「世界デザイン会議（ICSID'89 NAGOYA）」が、本年10月、名古屋で開かれます。

産業革命以来、人類は“より強く、より速く、より高く”という夢と希望を具現化する“モノ”の研究と開発を続けてきました。そしてデザインはこうした“モノ”と密接な関わりをもってきました。しかしながら21世紀を眼前に控えた今日、“モノ”が主導してきた社会の基盤が大きく変化してきています。いわゆる《情報化時代》としての社会のしくみや価値観を反映した、“モノ”の再構築が求められています。

すなわち、“モノ”がつくる場や、使う行動様式が描き出す風景、さらに“モノ”から想起される心象風景が、どのような未来をかたちづくるのかが課題となっているといえましょう。デザインが“モノ”に係わる膨大なエネルギーを文化へと結晶させる行為であるならば、今ほどデザインが必要とされている時代はないといえます。

「世界デザイン会議」は、こうした問題意識にたって、20世紀社会においてデザインの果たした社会的機能、および現代のデザインに係わる課題を総括するとともに、これからの情報化時代が求めている“モノ”文化のありかた、すなわち「かたちの新風景 情報化時代のデザイン」を構築していこうとするものであります。

こうした「世界デザイン会議」の主旨をうけデザイナーのみならず、より多くの一般市民の参加を得て、〈名古屋〉を来るべき21世紀の日本の、そして世界のデザインムーブメントの胎動の震源地とすべく、私たちは「世界のグレートデザイン展」を開催致します。

■ 概 要

- 名 称 「世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展」
- 会 期 平成元年10月17日(火)～22日(日)
午前9時30分～午後5時
- 会 場 愛知県美術館
1階 A、B室 計11室
2階 8室、C室
- 主 催 世界のグレートデザイン展
開催委員会
世界デザイン会議運営会
(愛知県・名古屋市・名古屋
商工会議所・中部経済連合
会・デザイン団体等)
東海テレビ放送、中日新聞、
東海ラジオ放送
- 特別協催 ブラザー工業、INAX
- 協 力 日本航空
- 目 的 世界デザイン会議に参加するデ
ザイナー、パネリストの作品や
思想を展示し、同時に世界各国
のトップデザイナーの作品コー
ナーによる20世紀のデザインを
統括し、合わせて21世紀のデザ
インを展望する。
- 動員目標 20,000人
- 入 場 料 無 料
- 事 業 費 180,000,000円
- 関連催事 「世界デザイン会議 世界のグ
レートデザイン展」に合わせ愛
知県文化講堂で、世界デザイ
ン会議に参加するデザイナーを中
心に「市民フォーラム」の開催
を推進する。

セレモニー

■ 開会式

世界デザイン会議 世界のグレートデザイン展の開会式は、1989年10月17日(火)午前9時30分より、愛知県美術館1階、玄関ホールにおいて招待者、関係者約80名が出席して行われた。

開催委員会会長の竹田弘太郎(名古屋商工会議所会頭)が、主催者を代表して挨拶、展覧会開催の意義と関係各位への協力に対し、お礼を述べた。続いて、来賓として出席していただいたロバート・ブレイク ICSID 会長から開催への祝辞を賜った。

この後テープカットに移り、主催者側では竹田弘太郎開催委員会会長、来賓では鈴木礼治愛知県知事をはじめ、西尾武喜名古屋市長、児島貢愛知県議会議長、梅村行雄名古屋市議会議長の4氏をお迎えし、小山勇中日新聞常務、若松信重東海テレビ放送社長の7氏によって行われた。

テープカットの後、開会式出席者は、2階の16室から内覧に移り、順次15室、A室、B室を鑑賞した。

午前10時から、一般の人々の入場が始まり、世界デザイン会議 世界のグレートデザイン展がここに開幕した。



■ レセプション

世界デザイン会議 世界のグレートデザイン展の開会式終了後、同日午前11時30分より、レセプションが開催された。東区東新町にある東海テレビ・テレビアホールを会場に、特別招待者であるパトリア・ムーアさん（インダストリアル・デザイナー・アメリカ）をはじめ、世界デザイン会議参加者、来賓、主催者、展覧会スタッフら総勢150名が出席した。

まず、竹田弘太郎開催委員会会長が挨拶した後、鈴木充東海テレビ放送会長の音頭で乾杯し、終始、和やかなムードの中で懇親会が進められた。

なお、この式典の途中では、会議参加者パトリア・ムーアさん、展覧会総合プロデューサー池亀拓夫さん、会場装飾プラン担当、若林広幸さん、海外出展交渉担当者を代表して、サンフランシスコ在住のケイコ・ネルソンさんらの紹介があり、国際的な展覧会に相応しいレセプションとなった。

又、会場内の大型スクリーンには、展覧会映像展示室用のVTRが上映され、出席者から絶賛を得た。



運 営

世界のグレートデザイン展開催委員会では、その趣旨の実現化に向けて、会場構成や展示計画などの運営、企画に鋭意努めてきた。

1) 会場設営・撤去

会場設営は10月15日(日)午後5時より、展示装飾設計、管理担当の若林広幸氏の指示のもと、中央芸館^(株)の作業員約80名により愛知県美術館外装、正面入口、展示室に分けて行われた。工程は10月15日(日)午後5時～10月17日午前6時30分の約1昼夜半にわたった。

愛知県美術館との事前の打合わせ事項のなかで指摘された同時期開催する愛知県新収蔵作品展と共用するスペースにおける展示物の安全管理、美術館の現状維持確保に充分留意して作業は終了した。

又、同様に10月22日(日)午後5時、展覧会終了と同時に撤去作業を開始し、10月23日(月)午後5時までの一昼夜をかけて、撤去作業を無事終了した。

2) 作品搬入・搬出・設置

展示作品は、9月下旬より順次、運送業務担当のヤマト運輸^(株)名古屋美術梱包営業所の倉庫と東陽倉庫^(株)トランクルームに搬入、保管。16日午前9時から、総合プロデューサー池亀拓夫氏の指示により、搬入・設置作業がヤマト運輸作業員約20名により開始された。作業は、イタリア・ミラノからの作品約2トン分が前日(15日)深夜に名古屋到着となるという厳しいスケジュールの中で進められたが、警備員の立会、作業員の慎重な開梱、運搬作業により、破損、盗難も全く発生せず、17日午前5時には愛知県美術館に搬入。設置作業を終了した。

又、搬出作業も、同様の体制で臨み22日午後5時から開始され、23日午後4時には、何ら事故もなく梱包、搬出作業を終了した。

事務局

1989年6月、世界のグレートデザイン展開
委員会設立後、大河内事務局長のもと右記
のとおり事務局が組織され、開催準備の実務作
業を担当した。

事務局は、東海テレビ放送内（名古屋市東区
東桜一丁目）に置かれ、東海テレビ社員、三晃
社社員、世界デザイン会議運営会職員が各々の
役割に配置された。

事務局長 大河内 邦 男
(東海テレビ)

事務局次長 河 出 一 哉
井 口 健
富 田 昌 宏
大 西 文 一 郎
高 木 英 夫
江 野 雄 二
伊 藤 敬
佐 藤 卓 男
設 楽 清

事務局員 近 藤 誠 宏
阪 田 晃
佐 野 紹
杉 本 秀 男
川 上 英 政
高 木 卓 司
牧ヶ野 英 生
高 宮 祐 一
赤 坂 佳 晃

以上 東海テレビ

佐 藤 正 明
矢 野 隆 司

以上 三晃社

成 田 佳 隆
川 口 信 雄

以上

世界デザイン会議運営会

入場者

■ 入場者

1989年10月17日から22日までの6日間、世界デザイン会議 世界のグレートデザイン展会期中に訪れた入場者は、下表のとおりで総数19,118人であった。1日最高入場者は、10月22日の日曜日4,193人で、1日平均入場者は3,186人であった。

主な入場者は世界デザイン会議参加者約400名のほか、企業内デザイン担当者、デザイン専攻学生など一般の市民であった。特に、海外からのデザイン会議参加者の来館が目立ち、国際色豊かな展覧会となった。

名古屋発のオリジナルなデザイン展を目標とただけに、入場者の評価は高く、「かつてない展覧会」「東京でも開催して欲しい」との声が多数聞かれた。

特に、バラエティーに富んだ展示作品、映像による世界のデザイン現況報告、会場装飾デザインについての評価が高かった。

■ 入場者の推移

日	10月17日(火)	10月18日(水)	10月19日(木)	10月20日(金)	10月21日(土)	10月22日(日)	合計
入場者数	2,282人	2,957人	2,390人	3,789人	3,507人	4,193人	19,118人



財 務

■ 開催委員会の収支予算

1989年6月2日に世界のグレートデザイン展開催委員会が設置され、第一回理事会では、具体的な事業計画、及び収支予算を決定した。

収入の内訳は世界デザイン会議運営会、東海テレビ放送からの負担金である。

支出の内訳は、展示会、市民フォーラムの展示関係費と管理運営費、委員会開催費、広報費を設定し、総額1億8,000万円とした。

■ 開催委員会の収支決算

収支決算については、下記の通りである。

収支決算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
負 担 金 雑 収 入	180,000,000 0	180,000,000 43,879	0 43,879	世界デザイン会議運営会 150,000,000 東海テレビ放送(株) 30,000,000 受取利息 43,879
合 計	180,000,000	180,043,879	43,879	

支出の部

項 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
管理運営費	6,743,840	4,445,186	△ 2,298,654	賃金 1,159,200 旅費、消耗品費 2,237,239 事務局維持管理費等 1,048,747
委員会開催費	952,640	524,239	△ 428,401	理事会開催費 215,769 運営委員会開催費 308,470
広 報 費	36,000,000	35,863,864	△ 136,136	印刷物作成費 3,992,176 ポスター、シンボルマークデザイン料等 4,360,590 広告掲載料 8,697,700 記録写真・映像等 18,813,398
展示関係費	136,303,520	139,210,590	2,907,070	展示企画費 16,859,647 調査旅費 7,913,185 展示品運搬、借上料 36,345,817 会場装飾費 64,817,480 展示会運営費等 13,274,461
合 計	180,000,000	180,043,879	43,879	

広報・宣伝

世界デザイン会議 世界のグレートデザイン展の成功に向けて、広報・宣伝は特に大きな役割を担うものであり、国際的イベントにふさわ

しい動員を図るべく、周知徹底に努めた。

広報・宣伝計画

■ パブリシティー活動

1) 中日新聞の社告と特集

- 世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展の開催案内
- 世界デザイン会議
市民フォーラムの開催案内
- 世界デザイン会議特集

2) 東海テレビ放送

- 「FNNイブニングニュース600」
10/9～10/12(4日間)
世界のグレートデザイン展特集放送
- 10/9
池亀拓夫総合プロデューサー
「世界のグレートデザイン展紹介」
- 10/10
企業のデザイン活動
ソニー、ランドアソシエイツ
JAL、他
- 10/11
若林広幸展示装飾プランナー
「デザイナーのジャンルの消滅」
- 10/12
世界のグレートデザイン展出展
海外のデザイナー紹介

「サンデートーク」

10/15(日)午前7時～7時15分

「世界のグレートデザイン展を前にして」

出席 池亀拓夫 総合プロデューサー
司会 草柳文恵

「さわやかフライデー」

10/13(金)午前10時～10時55分

「世界のグレートデザイン展特集」

出席 池亀拓夫 総合プロデューサー

「クロストーク」

激論!デザインビジネスを考える」

10/16(月)深夜1時25分～2時55分

出席 若林広幸
エドワード鈴木
川崎和男
可児才介
司会 池亀拓夫

3) 東海ラジオ放送

「ミュージックスクエア」

10/18～21(4日間)

世界のグレートデザイン展案内と

市民フォーラムの内容紹介

4) その他

- 記者発表

 - (経済記者クラブ・市政記者クラブ)

 - 6月2日(第1回理事会後、

 - 開催概要を記者発表)

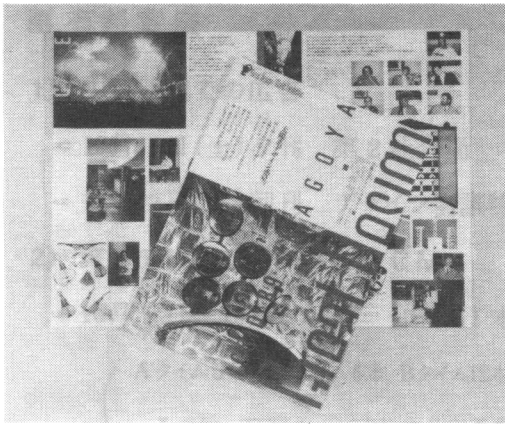
 - 10月12日(主な出展作品と

 - 展示構成プランを記者発表)

- デザイン専門誌へ開催概要を送付

- チラシ配布(20,000 枚)

- ポスター配布(2,000 枚)



■ 有料宣伝

1) 中日新聞での広告

○ 10月14日(土)夕刊 第2社会面 半5段
 10月17日(火)朝刊 デザイン会議特集 全4段

2) 東海テレビでのスポットCM

○ 10月5日～10月21日 合計31本
 (Aタイム5本 特Bタイム6本 Bタイム12本 Cタイム8本)
 (その他 東海テレビ空枠で放送多数)

3) 地下鉄車内広告 B3ポスター

○ 10月14日～10月17日

「世界デザイン会議の名古屋」(18、19日)名古屋
 市白鳥センタープラザ(名)の開催を記念し「市民フォーラム」と「世界のグレートデザイン展」を開きます。(7名入場無料)

世界デザイン会議
市民フォーラム

◇とき・ところ 18、19日午後6時・愛知文化講堂(トヨタ)など。解説 堀崎博氏

◇内容 【18日】前夜祭—映像文化とデザインのなま久人岡▽講演▽ジョン・タベ▽コミーシャル・ラン・フオード氏(人カ)

世界のグレートデザイン展

◇とき・ところ 17、21日・愛知美術館

◇内容 世界のトップデザイナー100人による「一性」未来のリビングモジュール、デザイナー先進国「日本」具、什(じ)物、器、建のデザインほか

◇とき・ところ 17、21日午後6時・愛知文化講堂(トヨタ)など。解説 堀崎博氏

◇内容 【18日】前夜祭—映像文化とデザインのなま久人岡▽講演▽ジョン・タベ▽コミーシャル・ラン・フオード氏(人カ)

◇内容 【19日】▽テーマ「限りなく広がるデザイン」▽講演▽ル・コルブシ、コラーニ、サイネ、西独)▽討論▽同氏と高校生代表。司会は竹原裕俊教授

◇内容 【20日】▽テーマ「文化の道化師」ハビエル・マリスカル▽対談バルセロナ五輪マスコットCOBIをデザインした岡氏(スペイン)▽榎本真理氏(デザイン)

◇内容 【21日】▽テーマ「自然は最高のデザイナー」▽講演▽ル・コルブシ、コラーニ、サイネ、西独)▽討論▽同氏と高校生代表。司会は竹原裕俊教授

▽市民フォーラム開催委員会、グレートデザイン展開催委員会、世界デザイン会議連合会、東海テレビ、東海ラジオ、共催、マラソン工業、INA X。特別協賛 中日新聞本社

世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展

太陽系 デザイン惑星。
 国を超え、時代を超え、
 人種や老若や思想を超え、
 デザインは、
 人と人をつなぐ、人と人を繋げる。
 昨日から今日、今日から明日へ
 響きつづけるデザインの進行形。
 その美しい力は、
 第三惑星人が生み出した
 大いなる言葉だ。

ICSID 88 NAGOYA
 Great Design/World Exhibition

1989.10.17(水)⇒22(日)
 9:30AM-5:00PM
愛知県美術館
入場無料

1 世界デザイン会議連合会(愛知、名古屋、名古屋工芸館、中京区美術館)主催
 2 世界デザイン会議連合会(愛知、名古屋、名古屋工芸館、中京区美術館)協賛
 3 世界デザイン会議連合会(愛知、名古屋、名古屋工芸館、中京区美術館)協賛
 4 世界デザイン会議連合会(愛知、名古屋、名古屋工芸館、中京区美術館)協賛
 5 世界デザイン会議連合会(愛知、名古屋、名古屋工芸館、中京区美術館)協賛

市民フォーラム
 愛知文化講堂(入場無料)
 ●毎日午後6時～9時
 ●毎日午後6時～9時
 ●毎日午後6時～9時
 ●毎日午後6時～9時
 ●毎日午後6時～9時

プログラム
 10月18日(木) 9:00PM
 ●講演 世界デザイン展のつづき
 ●講演 世界デザイン展のつづき
 ●講演 世界デザイン展のつづき
 ●講演 世界デザイン展のつづき
 ●講演 世界デザイン展のつづき

世界デザイン会議
世界のグレートデザイン展

太陽系 デザイン惑星。
 国を超え、時代を超え、
 人種や老若や思想を超え、
 デザインは、
 人と人をつなぐ、人と人を繋げる。
 昨日から今日、今日から明日へ
 響きつづけるデザインの進行形。
 その美しい力は、
 第三惑星人が生み出した
 大いなる言葉だ。

ICSID 88 NAGOYA
 Great Design/World Exhibition

1989.10.17(水)⇒22(日)
 9:30AM-5:00PM
愛知県美術館
入場無料

市民フォーラム
 愛知文化講堂(入場無料)
 ●毎日午後6時～9時
 ●毎日午後6時～9時
 ●毎日午後6時～9時
 ●毎日午後6時～9時
 ●毎日午後6時～9時

プログラム
 10月18日(木) 9:00PM
 ●講演 世界デザイン展のつづき
 ●講演 世界デザイン展のつづき
 ●講演 世界デザイン展のつづき
 ●講演 世界デザイン展のつづき
 ●講演 世界デザイン展のつづき

■その他

デザイン博 地下鉄名城線新車輛

車内広告 B3ポスター

額面広告

○7月15日(土)～9月14日(木)

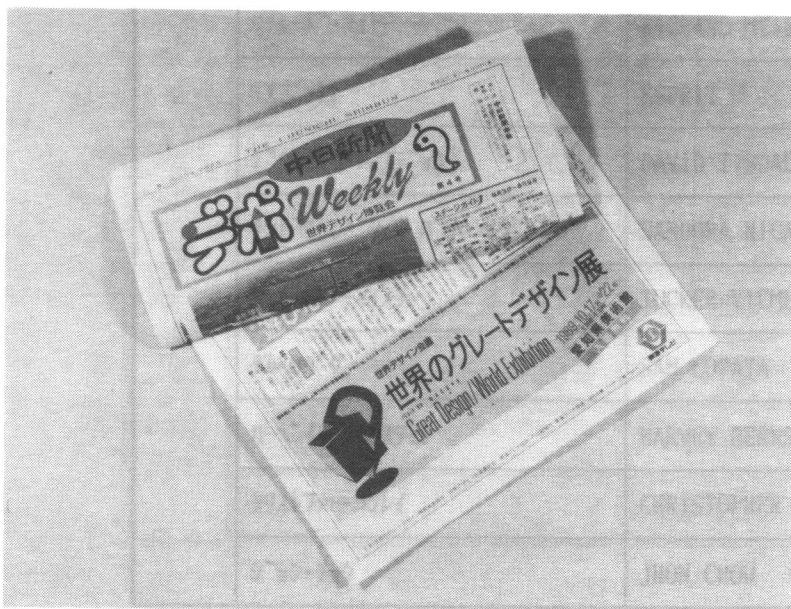
デザイン博 シャトルバス 車内広告 B3ポスター

○7月15日(土)～10月15日(日)

会場内配布用パンフレット 20,000枚

八木保氏デザインのポスターは、会期中を中心に、一般の市民から購入希望が多数寄せられる程好評だった。

又、写真を多用してグラフィック誌をイメージした会場用パンフレットもビジュアルに展示会が理解できると、大変好評を得た。



資料

■ 世界のグレートデザイン展作品出展者一覧

国名	デザイナー名	
イギリス	ナイジェル・コーツ	NIGEL COATES
フランス	アラン・カレ	ALAIN CARRE
	ジャン・ピエール・ウイトラック	JEAN PIERRE VITRAC
	フィリップ・スタルク	PHILIPPE STARCK
	マリー・クリスチヌ・ドナー	MARIE CHRISTINE DORNER
アメリカ	リチャード・ザウィッツ	RICHARD X. ZAWITZ
	ジェームス・エヴァンソン	JAMES EVANSON
	クワズミー & シーゲル	GWATHMEY & SIEGEL
	マイケル・グレイブス	MICHAEL GRAVES
	ロバート・ヘントリ	ROBERT VENTURI
	タイガーマン & マッカー	TIGERMAN & MCCURRY
	ロン・レゼック	RON REZEK
	エリック・バークマン	ERIC BERGMAN
	スティーブン・ホール	STEVEN HOLL
	リチャード・マイヤー	RICHARD MEIER
	エスプリ社	ESPRIT
	デヴィッド・ティスデイル	DAVID TISDALE
	サンドラ・ヒガシ & バイロン・グレイサー	SANDORA HIGASHI & BYRON GLASOR
	タッカー・ビームスター	TUCKER VIEMEISTER
	サム・ロパタ	SAM LOPATA
	ハーベイ・バーンスタイン	HARVEY BERNSTEIN
	クリストファー・コンレイ	CHRISTOPHER CONLEY
ジョン・チョウ	JHON CHOW	

国名	デザイナー名	
イタリア	アレッサントロ・メンディーニ	ALESSANDRO MENDINI
	エットレ・ソットサス	ETTORE SOTTsass
	ジョージ・ソウデン	GEORGE SOWDEN
	フランシスコ・トラビュッコ & マルセロ・ベッキ	FRANCESCO TRABUCCO & MARCELLO VECCHI
	ジョヴァンニ・サッチ	GIOVANNE SACCHI
	エンゾ・マリ	ENZO MARI
	フィラレラム & リアナ・グラッシ	FILAREME & LIANA GRASSI
	パッラディオ・ヴァリエ & レンゾ・ピアノ	PALLADIO VARIANTE & RENZO PIANO
	マルコ・ザヌソ & リチャード・ザッパ	MARCO ZANUSO & RICHARD SAPPER
	マルセロ・ニZZオリ	MARCELLO NIZZOLI
	マリオ・ベリニ	MARIO BELLINI
	ピエロ・ポラト	PIERO POLATO
	アントニオ・チッテリオ	ANTONIO CITTERIO
	カルロ・フォルコリニ	CARULO FORCOLINI
	アントニア・アストリ	ANTONIA ASTORI
	ゼウス	ZEUS
	マッテオ・トゥン	MATTEO THUN
	ガッティ/パオリニ/テオドロ	GATTI/PAOLINI/TEODORO
	カルロ・モリノ	CARLO MOLLINO
	アキレ & ピエール・ジヤコモ・カスティリオーニ	A. & P. G. CASTIGLIONI
デニス・サンタキアラ	DENIS SANTACHIARA	
ルイジ・セラフィニ	LUIGI SERAFINI	

国名	デザイナー名	
イタリア	デービッド・パルテラー	DAVID PALTERER
	アルド・ロッシ	ALDO ROSSI
	リカルド・ダリシ	RICCARDO DALISI
	リチャード・ザパー	RICHARD SAPPER
	マリアンヌ・ブランド	MARIANNE BRANDT
	ステラ	STELLA
	アキレ・カスティリオーニ	ACHILLE CASTIGLIONI
	ジヨルジエット・ジウジアーロ	G. GIUGIARO
	セルジオ・カラトローニ	SERGIO CALATRONI
	パオロ・マルティン	PAOLO MARTIN
	アルキミア	ALCHIMIA
	エルネスト・ジズモンディ	ERNESTO GISMONTI
	ミケーレ・デ・ルッキ	MICHELE DE LUCCHI
クリノ・カステリ	CLINOT CASTELLI	
西ドイツ	フロック・デザイン	FROGDESIGN
	ベルリナー・チマー	BERLINER ZIMMER
スイス	ロバート & トリックス ハウスマン	ROBERT & TRIX HAUSSMANN
オーストリア	ヨーゼフ・ホフマン	JOSEF HOFFMANN
日本	豊久 将三	SHOZO TOYOHISA
	若林 広幸	HIROYUKI WAKABAYASHI
	日本電気デザインセンター	NEC
	川崎 和男	KAZUO KAWASAKI

国名	デザイナー名	
日 本	ブラザー工業	BROTHER INDUSTRIES
	倉俣 史朗	SHIRO KURAMATA
	イトワト 鈴木	EDWARD SUZUKI
	本田技術研究所朝霞研究所	HONDA
	松下電器産業総合デザインセンター	NATIONAL
	ソニーデザインセンター	SONY

世界のグレートデザイン展開催委員会規約

(名称)

第1条 この会は、世界のグレートデザイン展開催委員会（以下「本会」という）と称する。

(目的)

第2条 本会は、1989年の名古屋における世界デザイン会議の特別事業として世界デザイン会議世界のグレートデザイン展の開催運営を行うことにより一般市民にデザインに対する理解と認識を深めてもらう機会とする。

(事務所)

第3条 本会は、事務所を東海テレビ放送株式会社内に置く。

(構成)

第4条 本会は、世界デザイン会議運営会、東海テレビ放送、中日新聞社、東海ラジオ放送をもって構成する。

(事業)

第5条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 世界デザイン会議世界のグレートデザイン展の開催運営
- (2) 世界デザイン会議市民フォーラムの推進
- (3) その他本会の目的を達成するために必要な事業

(経費)

第6条 本会の経費は、補助金、負担金、寄付金、その他の収入をもってこれにあてる。

(役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名

- (2) 理事 15名以内
- (3) 監事 2名

(役員を選任)

第8条 本会の会長は、世界デザイン会議運営会会長をもってこれにあてる。

- 2 理事及び監事は、第4条の構成団体の役職員及び学識経験者等のうちから会長が委嘱する。

(役員職務)

第9条 会長は、本会を代表、会務を総理する。

- 2 理事は、理事会を組織して会務を審議し、これを執行する。
- 3 監事は、本会の事業及び会計を監査する。

(役員任期)

第10条 役員任期は、第16条の規定に基づき解散するときまでとする。

(理事会)

第11条 本会に理事会を置く。

- 2 理事会は、理事をもって構成し、次の事項を審議し、決定する。
 - (1) 本会の規約の改正
 - (2) 本会の事業計画及び収支予算
 - (3) 本会の事業報告及び収支決算
 - (4) その他、本会の運営上特に重要な事項

(理事会の招集及び運営)

第12条 理事会は、会長が必要の都度招集し、議長となる。

- 2 理事会の議事は、出席理事の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 監事は、理事会に出席して、意見を述べることができる。

(運営委員会)

第13条 本会に、運営委員会を置く。

- 2 運営委員会には、委員長、副委員長及び委員を置き、委員長は、会長が委嘱し、副委員長及び委員は、委員長の同意を得て会長が委嘱する。
- 3 運営委員会は、事業の執行に関して必要な事項の企画、立案を行うほか、事業の実施運営を行う。
- 4 運営委員会について必要な事項は、会長が別に定める。

(事務局)

第14条 本会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長及びその他職員を置く。
- 3 事務局について必要な事項は、会長が別に定める。

(解散)

第15条 本会は、第2条の目的を達成した後、理事会の同意を得て解散する。

(委任)

第16条 この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附則

1. この規約は、平成元年6月2日から施行する。

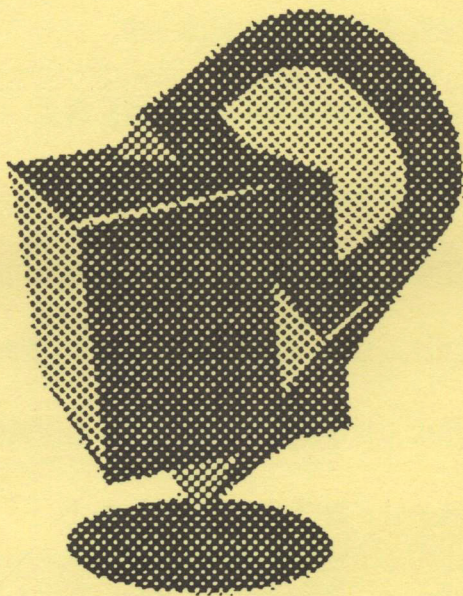
世界のグレートデザイン展開催委員会役員

会 長	世界デザイン会議運営会会長 (名古屋商工会議所会頭)	竹 田 弘太郎
理 事	中部経済連合会副会長	甘 利 公 雄
”	名古屋市助役	大 澤 正 隆
”	株式会社中日新聞社取締役社長	大 島 宏 彦
”	愛知県副知事	甲 斐 一 政
”	財団法人日本産業デザイン振興会理事長	小 林 健 夫
”	名古屋商工会議所専務理事	白 石 久 也
”	社団法人日本インダストリアルデザイナー協会理事長	豊 口 協
”	東海ラジオ放送株式会社代表取締役社長	南 正 義
”	世界デザイン会議運営会実行委員長	諸 星 和 夫
”	東海テレビ放送株式会社代表取締役社長	若 松 信 重
監 事	東海テレビ放送株式会社経理部長	磯 貝 清
”	愛知県商工部次長	北 村 直 哉

(50音順)

運 営 委 員 会

委 員 長	世界デザイン会議運営会実行委員長	諸 星 和 夫
副 委 員 長	東海テレビ放送株式会社役員待遇総合開発局長	渡 辺 登
”	東海テレビ放送株式会社役員待遇 クリエイティブセンター局長	伏 屋 良 郎
委 員 (総合コーディネーター)	株式会社デザインステーション代表取締役	池 亀 拓 夫
” (事務局 長)	東海テレビ放送株式会社 ホール運営センター局長	大河内 邦 男
”	世界デザイン会議運営会事務局次長	野 坂 貞 三
”	愛知県商工部商業貿易課主幹	柴 田 茂
”	名古屋市経済局商工部観光貿易課長	青 木 功
”	名古屋商工会議所総務企画部長	青 山 香美二
”	中部経済連合会総務部長	草 間 紀 久
”	社団法人日本インダストリアルデザイナー協会事務局長	羽 原 肅 郎
”	財団法人日本産業デザイン振興会振興事業課長	田 中 義 信
”	東海テレビ放送株式会社編成局長	世 古 治
”	東海テレビ放送株式会社情報システム室長	中 田 寿 明
”	株式会社中日新聞社事業局次長	堀 内 種 正
”	株式会社中日新聞社事業局次長・社会事業部長	西 川 順之助
”	株式会社中日新聞社文化事業部長	相 羽 規 充
”	東海ラジオ放送株式会社事業部長	杉 山 達 也



ICSID '89 N A G O Y A

Great Design/World Exhibition

世界デザイン博

世界のグレートデザイン展

主 催/世界のグレートデザイン展開催委員会、世界デザイン会議運営会(愛知県
名古屋市 名古屋商工会議所 中部経済連合会 デザイン団体等)
東海テレビ放送 中日新聞社 東海ラジオ放送

会 期/1989年10月17日(火)~22日(日) 午前9時30分~午後5時 会場/愛知県美術館
特別協賛/ブラザー工業株、株式会社INAX 協力/日本航空
問い合わせ先/世界のグレートデザイン展開催委員会事務局 TEL.(052)953-5958